

令和8年度 高津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学	(参考)英語3技能
3 年	学校	126	68	64	1.4	4.7	566
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

平均正答率は全国と比較して4.1ポイント上回っており、平均無解答率は3.5ポイント低かった。

領域ごとの平均正答率はほぼすべての領域において全国を上回り、特に「書くこと」領域では全国を11.3ポイント以上上回る成果が見られた。

＜数学＞

平均正答率は全国と比較して7ポイント上回っており、平均無解答率は5.7ポイント低かった。

領域ごとの平均正答率はすべての領域において全国を上回り、特に「関数」の領域では全国を12.8ポイント以上上回る成果が見られた。

＜英語＞

全国と比較してIRTスコア（3技能 読む・書く・聞く）が67ポイント上回っている。

＜生徒質問紙＞

「朝食を毎日食べていますか（+4.4）」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか（+2.3）」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（+2.6）」「1、2年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか（+12.5）」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると上回っている。

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（-2.4）」「将来の夢や目標を持っていますか（-3.8）」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると下回っている。

今後に向けて

【今後に向けて】

これまで、どの教科においても授業の中で自分で考えたことを他者に分かりやすく発表したり説明したりする活動を多く取り入れて表現力を育むとともに、朝読等の読書活動、また総合的読解力育成カリキュラムによる授業を通じて向上を図ってきた。これらの取組が、全国の平均正答率を上回った成果につながったと考えられる。

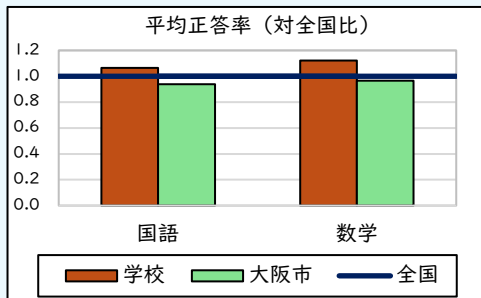
また、朝学習の時間、長期休業中に加えて生徒一人一人の学力に応じた課題を設定し、効果的にスタディサプリ活用することで学力の向上に努めることが学力の向上にも繋がった。

今後も授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善の取組として、これまで本校で取り組んできている習熟度別少人数授業やチームティーチングによる授業実践や、生徒一人一台端末を効果的に活用し、個別最適な学習指導を展開することで個々の課題解決につなげていきたい。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

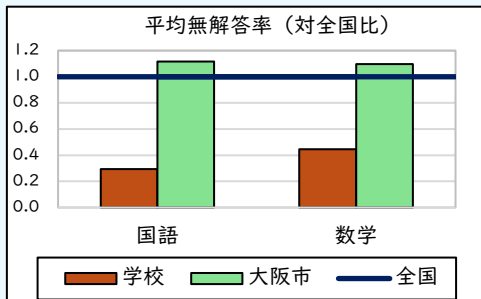
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	68	64
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



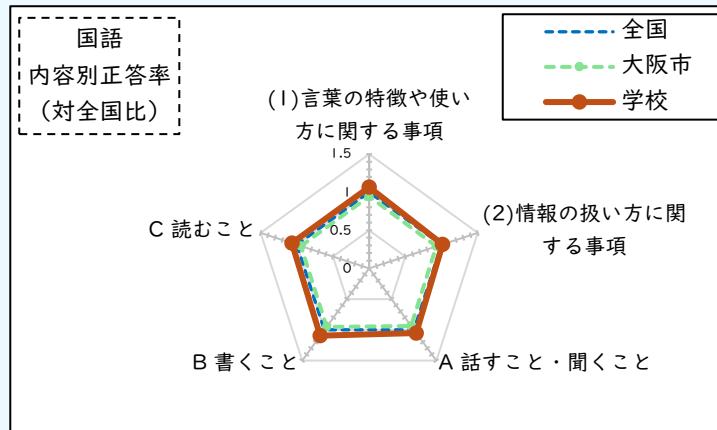
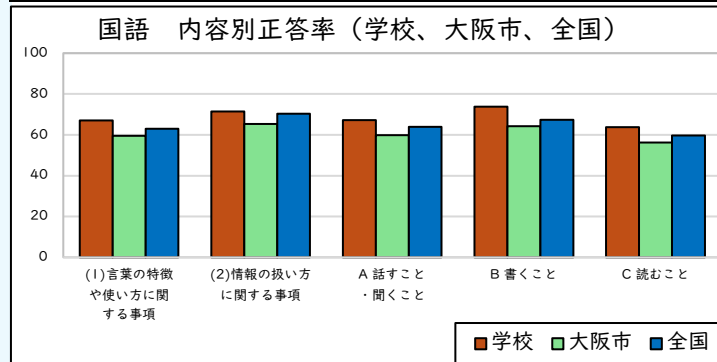
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	1.4	4.7
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



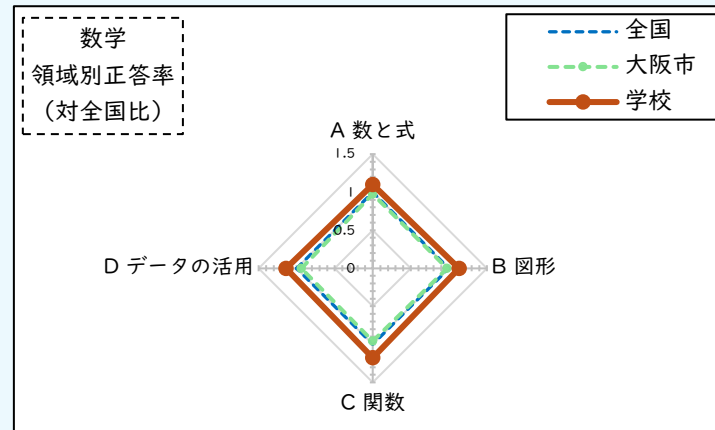
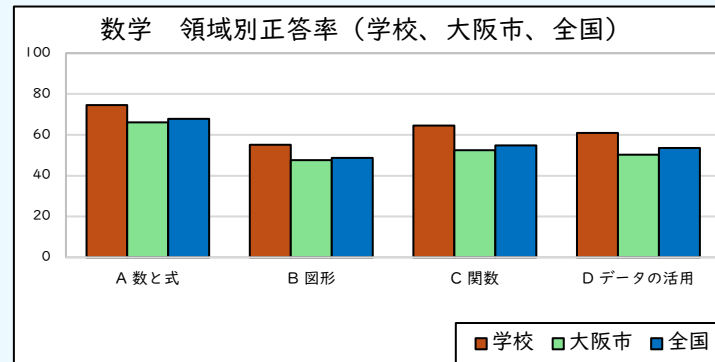
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	67.1	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	71.4	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	67.2	59.9	63.9
B 書くこと	3	73.8	64.2	67.4
C 読むこと	3	63.8	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	74.6	66.1	67.8
B 図形	4	55.2	47.6	48.7
C 関数	3	64.5	52.5	54.8
D データの活用	4	61.0	50.2	53.5

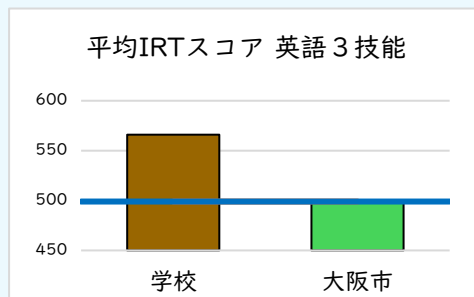


令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	(566)
大阪市	(499)
全国	(499)

※（参考）3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

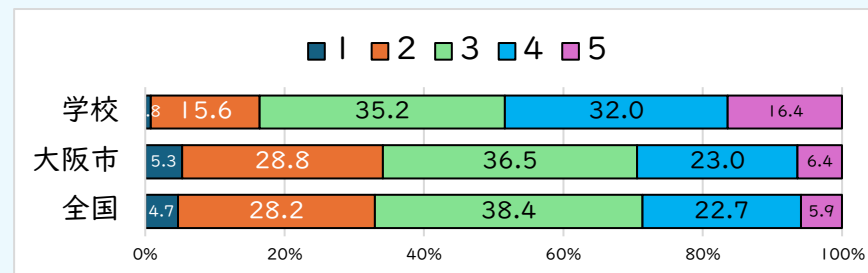
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（3技能）

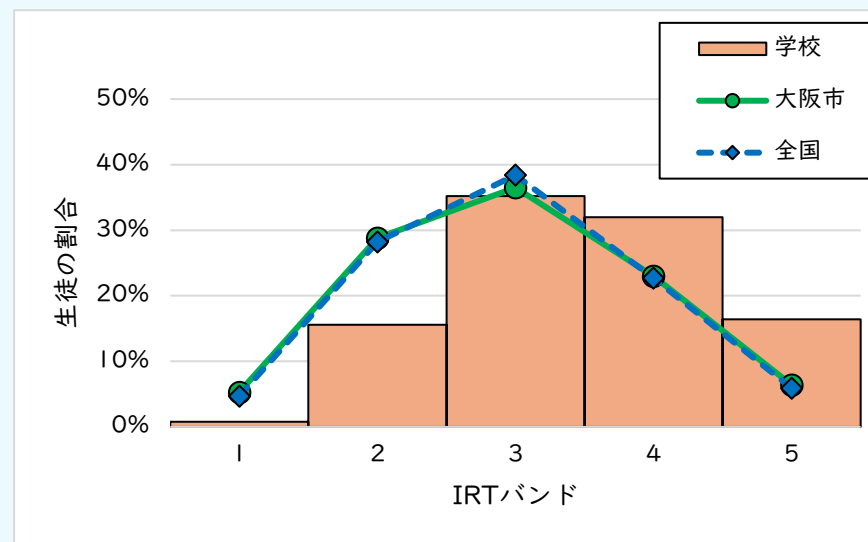
	1	2	3	4	5
学校	0.8	15.6	35.2	32.0	16.4
大阪市	5.3	28.8	36.5	23.0	6.4
全国	4.7	28.2	38.4	22.7	5.9

※3技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（3技能）



IRTバンド分布グラフ（3技能）



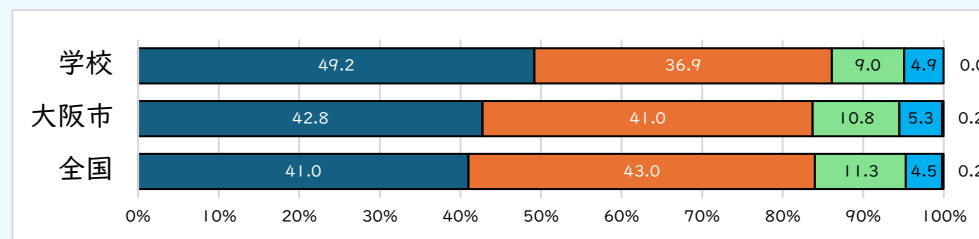
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

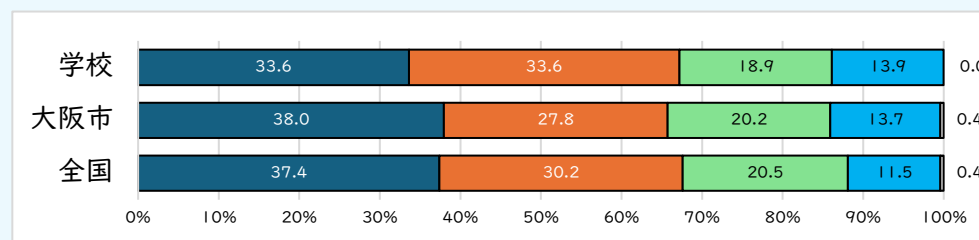
質問番号 質問事項

(8)	自分には、よいところがあると思いますか
-----	---------------------



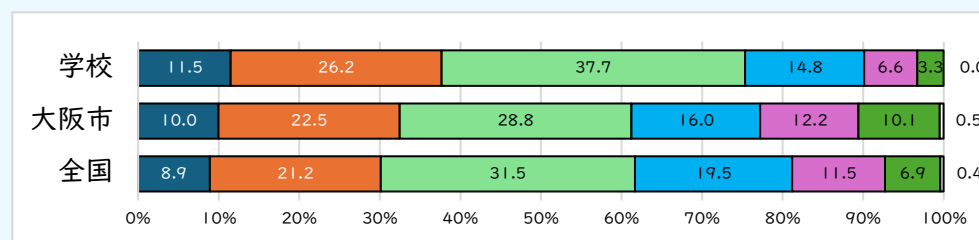
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(10)	将来の夢や目標を持っていますか
------	-----------------



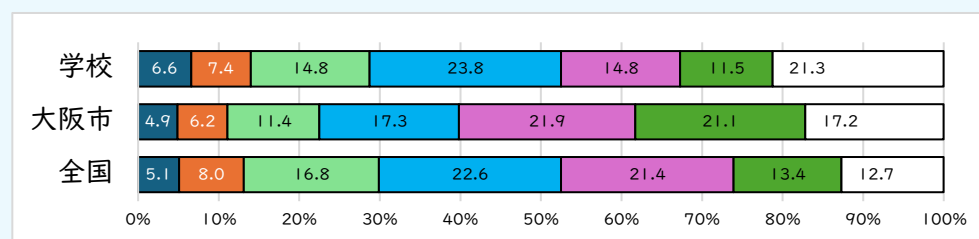
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(23)	学校の授業時間以外に、自宅（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
------	--



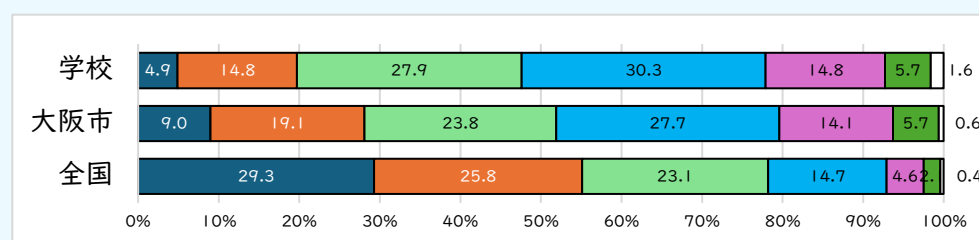
- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない

(25)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
------	--



- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしない

(35)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
------	---



- 1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）
- 2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）
- 3 週3回以上
- 4 週1回以上
- 5 月1回以上
- 6 月1回未満

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

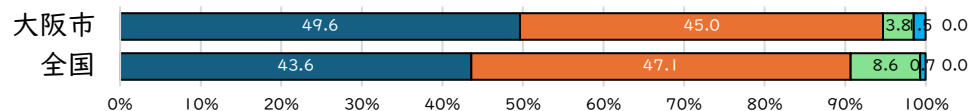
質問番号

質問事項

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

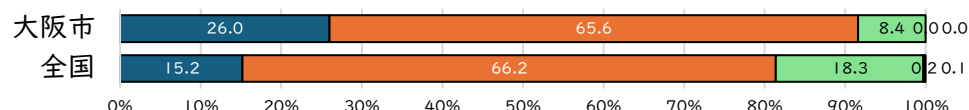


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(27)

調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

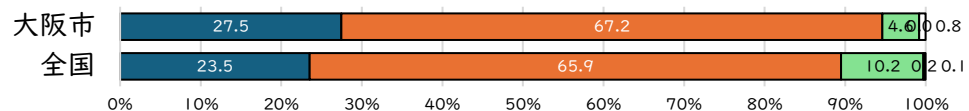


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(28)

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

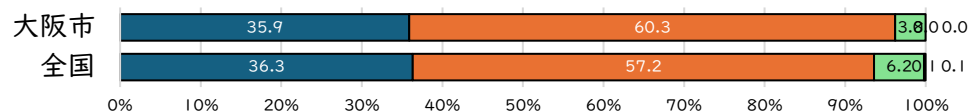


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(41)

調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

【学校の回答】 1 よくしている

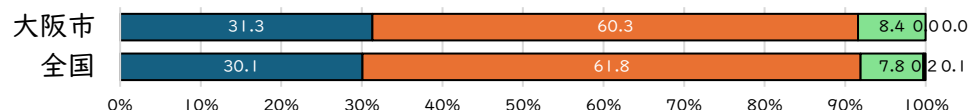


- 1 よくしている
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(42)

調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか

【学校の回答】 1 よくしている



- 1 よくしている
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない